九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

【資料】奥田八二氏のある日の談話

橋口，甚之輔
元自治労福岡県本部執行委員長

福留，久大
九州大学 ： 名誉教授

https://doi.org/10.15017/4068633

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 5, pp.315-331, 2020-09-30. 奥田八二日記研究会(九州大学大学文書館内)
バージョン：
権利関係：

【資　料】

奥田八二氏のある日の談話

お話を聞いた日・場所

第一回　1999（平成 11）年 4 月 1 日　アクロス福岡 8 階理事長室

第二回　1999（平成 11）年 7 月 2 日　済生会病院　東棟　901 号室

話題について

奥田先生のお話は、「三池」や鵜崎県政の頃の話が中心になっています。しかし、当初は、奥田「県民党」県政の苦労話や自慢話をお聴きする予定で、アポを取ってもらったのですが、なかなか知事時代の話に入ってくれませんでした。

今度こそはと、二回目をセットしましたが、この時も、のっけから「Labourism」の話から、意気込んで入るテンションの高さでした。

そして、ついに知事時代のお話は聴けず仕舞いでした。

多分、奥田教授にとって、知事時代の話は、二の次の話、だったのでしょうか？

お茶を飲みながらの、雑談風の話ですが、この中に、学者・研究者として生涯を全うしたかった奥田八二教授の原点、或いは真骨頂が語られていると思います。

2007（平成 19）年 1 月 20 日（文責　橋口甚之輔）

記録について

この聴き取りは、奥田八二氏の逝去の一年余り前に行われた。奥田氏の体調の必ずしも芳しくないときだった。また茶呑み話のようなくだけて雰囲気で行われた模様である。そのために、必ずしも正確でない部分が少なからず見受けられる。しかし、他方では、そういう雰囲気のなかだけに、奥田氏の偽らざる思念が表出しているところも垣間見られる。そういう意味で、公表する価値の認められる記録だと判断した。明らかな誤字は断りなしで正し、最小限の事実の誤りにつき註記を施した。原本の表題は、橋口氏の思いを込めて「政治家になれなかった奥田八二教授のある日の談話」となっていた。しかし、客観的には知事という政治家になった事実は否定できないし、聴き取りの当時は「教授」でもなかったので、現在の表題に変更されることになった。（註記　福留久大）

4月1日　奥田前知事談話

○日時：1999年4月1日　　○場所：アクロス福岡8階理事長室
○参加者　安達博明、橋口甚之輔、兵頭淳史、出水　薫、島津登三

A：「県政が良くなるなんて、そんなもの中央を良くしなければ出来るものか。県政からやっていくなんておかしいじゃないか」それから、「三池闘争に力を」…、僕は一週間ともほとんど毎日の如くヤマ（炭坑）に行ってた。で、そのうち半分は筑豊に、半分は三池に行っていた。それで、「お前三日間無駄をしておる、三日間三池に行け」と言われた。

「炭坑のあの筑豊の小山の貧乏タレの馬鹿ばっかり集まっているところに行って一体お前は何をしているのか？」と言われた。「三池に行け、三池に行けば革命が一日でも早く出来る」と言うんです[1]。「何言いよるんか」と僕は反撥しておった。

私は筑豊にも関係があったから、黒い羽根運動にもあれしたんだが、あの時はもう怒られててねぇ…、僕はある意味では弟子やったもんなぁ、そういう問題があるんだ。

Q：向坂先生の地方自治に対する認識というか…、それは、当時の労農派、左翼の一般的な意識か？

A：労農派というより、向坂派てすねぇ…。とにかく、国は考えるけど、地方自治は考えないということでしょう…。そういう所の考え方の分かれ目、或いは違った面からみると、運動の民主主義です。全国の運動が無ければ、地域ではいくら良い運動があってもデケヘンと…。

Q：松井安信先生は、「奥田さんの…研究者としての特徴が、…地域的・横糸の視点から、地区労や自治体の革新も重視されていた…」と言われている（『大いなる人間模様』190P）が？

A：地区労の勉強したのは全国的に僕だけですよ。福岡県の地区労は全部調査してます。その辺の政治目的とかいうのもその中に入っている。地域の一つ一つの改良とか、労働者だけでなくて住民の改良を入れて、労働者が先頭に立つ。

Q：当時の向坂先生、社会主義協会の地区労運動に対する位置付けは？

A：だから、お前の努力は革命にならんと、…毎度毎度そう言うんです。

Q：そういう発想が、どうして三池の職場闘争や炭坑の争議が革命の一環、直結する、総資本対総労働だと言うその論理が分からない？

A：だから、マッチに火を付けたみたいになっているのではないの、…これが燃えれば全国が燃えていくんだと、三池から火が付く…と。

Q：それからいくと奥田先生が筑豊に行く事も役に立つ、火が拡大する役割がある、と言っ

[1] 以上に引用された発言は向坂逸郎のもの。

てもおかしくないが、そうはならないのか？

A：いや、三池でもっと燃やさにゃいかん…と、堅固にネ…社会主義で固めにゃいかんと、彼は言っている。しかし、僕は、一か所だけでは済まない、と…。

Q：三池で解雇撤回させれば、日本資本主義は崩壊する…と、そういう風な論理か？

A：それもある。

Q：向坂先生と奥田先生の意識のずれはどの辺から出てくるのか？

A：…要望があるので、筑豊をやめたというわけにいかない。それで三池も行ったし、筑豊にも行った。三池は向坂先生の要望が強かったので、奉仕しようと思って一生懸命行った。ところが、筑豊に行ったらいかん、いらんエネルギーを使うなって、言うんだ。

Q：向坂さんは、主戦場に力を集中して、戦略的戦術的な判断からそう言った？　それに対して先生は？

A：マルクス主義も、そうだ、と言うんです。

Q：むしろ、人とのつながりで言って来る人達を切り捨てられなくて、頼まれて、戦略戦術的判断よりもそういうつながりを重視したということで…？

A：マルクス・レーニン主義革命というところから言えば、共産党、社会党があった。これ、労農派で分かれて行ったけど、この辺から変わってくる。

共産党とは違うでしょう。自分の身の置き所が無いわけです。

昭和 22 年に山川均さんとか、荒畑寒村の流れです。向坂さんが跡を継ぎ、トップになっていた。日本のわれわれの考え方のグループを何処に置けば良いかといえば、共産党に置くわけにいかん。ということで、社会党に入ったら、太田薫さんみたいな人が居って、居っても良いよと言うのが何人かいたわけ。その中に潜って居ったわけ。その中でマルクス・レーニン主義を生かそうとした。

マルクス・レーニン主義というのは、一極集中の一点突破論ですね…。共産党と違う方向をどうすれば良いかということで、社会党左派を形成したわけです。その時は苦労した。社会党の中に潜り込むのが…。向坂さんは、自分達だけで党は作りきらん、それで社会党の中に隠れようと…。

Q：社会党の中に「潜る」というのは、向坂先生の表現か？

A：そうそう。その中で、太田薫が、来い来いと、そういう考えがあっても良いじゃないかと言うので、行ったわけ…。最初、22 年頃、運動が始まった頃、合化労連というのはもう出来たわけ、ところが、合化のあばら家しか持ってなかった。で、芝 5 丁目にキチッとしたヤツを建てた。お前たち潜り込んどいて良いよというわけで、合化労連に一部屋借りておった。今でもそう。

Q：その頃、高橋正雄さん、大内兵衛はどうでした？

A：高橋さんは全然別。大内兵衛も無関心。高橋さんは関心を持ちながらも流れが違うと言いだした。

Q：九大の同人に高橋さんは？

A：居らん。

Q：森耕二郎さんは？

A：これは、講座派です。

Q：森耕二郎さんの影響は？

A：何も無い。隣の部屋に川口武彦が居った。…「向坂逸郎が九大に戻って来る。迎えに行くか、話してみるか？」ということで、…。川口武彦が随分傾いた。僕も傾いた。それで、直属の森耕二郎教授は「奥田を切る」というわけ。昭和 25 年か、彼が酔っぱらって僕の研究室に来て、「お前、勉強しとらんではないか、九大に居っても仕様が無い。もう帰れ」って、直接怒鳴り込まれた。その時、松井（金沢に行った）とか、中楯[2]とか、何人か向坂門下の 5 人くらいが向坂を包んで居た[3]。それが、全部奥田の悪口を言うわけ。

　これ全部森派です。講座派です。僕はそこからはじき出されて、それから、向坂通いばかりだ。毎週毎週、彼の桜坂の下宿に行っては本を読んでいた。資本論じゃないが、エンゲルスじゃないが、ヒルファディングじゃないが、いろいろ読みました。随分読みました。読書会。毎週だ。向坂さんは、年に半年来ていた、半分は東京です。

Q：奥田先生が炭坑に興味を持たれたのは森耕二郎さんの社会政策の…？

A：いや、それは直接にはよく分からないけど、それと別個に大手の炭坑ばかりで作った炭連があった。それが労働学校を全国に募った。その所在地が三井山野です。そこに、あっちこっち労働講座の要請があって、行っていた。労働学校の校長（田中光夫）が講師を呼ぶ。彼がドンドン大手の会社に僕を紹介した。昭和 25 年頃、県のパンフレット（5 分冊位）に執筆した。労働運動史、イギリスが中心です。飯塚の労政事務所が九大で労働運動をやっているのは誰かということで僕を呼んで、…、（田中光夫さんが）私に大手の組合を紹介した。僕が最初に三池に行ったのは、向坂関係でもなんでもない。炭連関係でもない。全然別の労働問題をやっているというので行った。…三池にダーッと入った。その後から向坂先生は入って来た。

Q：三池は、田中光夫さんの紹介で…？

A：そうです。

Q：その頃、三池の労働組合は弱かったんでしょう？

A：それはもうグシャグシャですよ、何も無かった。僕が三池を強くしたとか、踏ん張りをアレしたと言うんじゃなくて、勿論、向坂さんも努力したと思う。彼は、銀水にいた。

Q：向坂先生の三池に入る切っ掛けは？

A：私の知ってるのは、三池に事業家がいた。向坂さんと非常に仲の良い事業家が向坂家に

---

[2] 中楯は田中定門下であり、森耕二郎門下ではない（註 3 も参照）。

[3] この文の「向坂」は「森」の誤り。

来て、炭坑労働組合を紹介した。私は、向坂さんの強さには驚いた、感心した。非常な影響力を持っていた。

Q：福岡県政研究会の発足、県政問題に奥田先生が関心を持ちはじめるのは、最初どう言う切っ掛けか？

A：浪江虔。町の図書館という運動をしている人です。この人が非常に地域とか自治体というか、町というものを大事に考えるのです。地方は政策の優先だ。国はせんでも地方がせんか！と。発想は同じ流れです。浪江さんの影響てすね。

Q：高橋正雄先生は？

A：特に相談してません。柱になってもらおうというだけです。

Q：高橋正雄先生の「都政研究会」の発想と、奥田先生の「県政研究会」の発想がたまたま一致していたということ？

A：そうです。特に彼が手を汚したとか、汗を流したとかいうことは無い。

Q：学者のなかで他に相談した人は？

A：松井安信が大分同情はしてくれたけれど、直接の手助けにはならなかったなぁ…。

Q：先生が声掛けはじめて、県評が乗って来るわけてすか？

A：県評は後のこと。僕がアレされたのは、労政事務所、県職ですよ。安養寺さんからです。

Q：県職の直接の交流は、安養寺さんか？

A：そうです。安養寺です。

向坂思想というものの流れは今は止まっています。ほぼ止まっている。止まらざるを得ない。

最初出発したのは暴力革命から出発した。それが平和革命に転換したのが日本の向坂系からです。山川です。荒畑です。その辺から「平和革命」という言葉が入って来る。

平和革命というのは民主主義の手続きを通じてということなんだから、…。

その流れを社会党の中に注入しなければならない。それが、戦後のスタートです。

私が向坂さんとぶつかり始めたのは、平和革命というのは、いますぐ考えない、むしろ、下地を作るのが先だと、…。

7 月 2 日　奥田前知事談話

○日時：1999 年 7 月 2 日　　○場所：済生会病院　東棟 901 号室

○参加者　安達博明、橋口甚之輔、兵頭淳史

A：最近の事で私が云いたいことは、輪郭を考えていたので一寸申し上げたい…、云いたいのは、労働運動と軽く云うけど、そんな簡単なものでないと言うことを…切り開いて初め

て歴史というものは言えると思う、で、労働というものは一体何なのかと いうことから始まるであろうと、…、

私が研究所[4]に入って労働運動史をやらんにやと思って、ぶつかった問題は、やっぱり、「Work」と「Labour」という問題である。我々が労働運動史といっているのは、「History of Labourism」だ。「Work」じゃない。そこんところを良く考えてみると、…、それは今でも、例えば、県職労と言っても、「Labour」と「Work」が入っている、ごちゃ混ぜに考えている、多くの人が。だから労働組合のもっている思想が違うとか云うのもその自然的な分類の中に、考え方がどうしてもこうならない、と、どうしても違う、と、ということを私は区別として未だに残っている。

Q：「Labour」と「Work」、どう区別すればいいか？

A：「Work」は、家庭労働まで「Work」です。日記書くのも「Work」です。

「Labour」というのは、必ず自分の為の仕事ではなくて、人の為の仕事であり、或いは単なる仕事であり、それを分類し、時間を切って、分類の種類、時間の長さによって支払う、これが、「Labour」です。

「History of Labourism」、労働運動史というのは、そういう中での人間の闘いの歴史なのです。だから「Work」の闘いの歴史とは違う。

イギリスの労働運動史は古いから、あれは、結局「Work」じゃない、始めは。皆がやりだしたのは、職人。これは労働者と違う。どこが違うか、給料貰っているわけじゃない。仕事の評価も、客観的にはあるかもしれないが、買う人は仕事をチャンとみている。

そういう中で長い歴史の中で出てきたのがクラフトです。クラフトの労働組合です。イギリスでいうなら職人組合の歴史というものは判った方が良いが、なかなか判らない。勉強が足りない人が多いと思う。しかし、職人の運動史が、労働運動史に転化して行かねばならない。それが尾を引きながら転化していく…、

そこんところを現在的に考えると、例えば県庁職員の仕事は、「Work」なのか「Labour」なのか。

僕は小学校の頃往復しながら、道草食うと県道を修理している人がおる。これが県の職員、県が雇った労働者、純粋の労働者です。その人達の県に対応する考え方と、県職員とは違う。その辺の区別というのはある。それがいまは県職労になっている。

私が云いたいのは、仕事の性質の違いと思想の違い、運動の違いというのは、ずーっとある。それが歴史にもなっている。或いは括り方如何によって、その組合の体質にも違いが出てくる。

三池の職組と労組。現場に行けば…、これが同じ労働組合を作る、本当はおかしい。給料も違うし、…、給料という言葉も、日本ではあまり明確ではないけれども、違う。俸給

4 「研究室」の誤りか。

と賃金。一番正しいのは賃金。俸給というのは曖昧。

「賃」というのは、「部屋代」みたいなもんで、部屋の広さ、何平米かによって、ちゃんと計算の出来る「家賃」。「賃」とはそういうもの。

給料の名称についても十分注意しながら運動史書いた方が良い。

そういう事を私は最初に気づいた。それから本当に運動史の仕事を研究し始めた。

Q：やはり、イギリス労働運動史ですか？

A：そうですね。日本の場合は、かなりここのところ時間が飛んでいる、近代化が遅れて、近代化を輸入して、その辺ごちゃ混ぜになっている、かなり。ところが、思想でもそうですが、例えばよく向坂派で、荒畑寒村がどうだこうだと、と言う。この人は、「Labour」というのが判っているのか？と。

日本の経済情勢は、いわゆる「Labour」で固まっていない。そういう問題がある。裏にありながら、一応は述べて、云うけれど、…。

そういう分類の仕方と歴史と社会発展というのが第一。だから県職労の歴史の場合も、関係ないかも知らんが、あいつは組合に対して冷たいとか、あれは、経営者的だとか資本家的だとか、云う場合がある。そう云う区別は歴史の中で生まれてきた。そのことが在ることを客観化しなければならない、主観的にイエス・ノーという風に云わないで、客観化せにゃいかん。

もう一つは思想ですね。思想と云う場合に、よく、右派とか、社会党左派とか、云う。一体共産党というのは何処から生まれたのか？と。何処に根っこが在るのか？と。特別の根っこがある。社会党はその特別の根っこがある。それがいままで運動と指導していく中では、結局自分の根っこが無いから、判らなくなっている。全体的に言って、日本の労働運動を指導する思想というのは、根っこが判らなくなっている。根っこに非常に関係があったからこそと思うのは、19 世紀の後半に「共産党宣言」がだされた、マルクス、エンゲルスとくっついていって、「第一インター」とかくっついて行く、そういう場合に、根っこがキチッとあって、イギリスのように、共産党のようなものが入ってない。根っこが違う。

Q：イギリスの場合、根っこありますか？

A：無いと言うのが根っこだ。

Q：「根っこ」とは、何か？

A：「根っこ」とは、共産主義でも社会主義でも、理論の構造から言えば、簡単に言うと、どんなに大火事があろうと台風があろうと、出来ない、根っこが無いから。根っこの無いものを空想している。これを先ずやったのが「共産党宣言」。

私は、一番始めに勉強し始めたのは、18 世紀[5]の、トーマス・モア。あれは、全く「根」

[5] 「15～16 世紀」の誤り。

が無い。空想している。でもあれは、根のある空想をしている。そういう社会を夢みるわけ。その時に一番基礎になるのは、エンクロージャー。あれで資本主義がダーと発達する。資本主義が発達していくと同時に、その社会が変質していく。その根源はエンクロージャーにある。トーマス・モアは、それに対して否定をぶっつけていた。根っこ無いけれどぶっつけた、きちっと、本当にキチッと。単なる空想的な人という風に言うのではなくて、今でも、忘れられない非常に優秀な思想だと思っている。

それから、ずーっと下がって来て、マルクスの時代と重なるけれども、ロバート・オーエン、これは凄いですね。エンゲルスなど後に空想的社会主義と言った。そこなんです。そこが非常に良い。むしろマルクスとかエンゲルスとかいう人達が唱えた所謂社会主義、ましてやレーニンも、これはまだ空想なんです。まだね。

Q：空想ですか、科学的社会主義と言ってませんでしたか？

A：まだ足りないからこそ、ああなったのです。私は社会思想からこれを言っているが、科学的社会主義、マルクス、エンゲルスで、トーマス・モアをああ叩いたというのはかなり間違いだ。イギリスであれだけの仕事をして、もし俺が出来るのならこういう社会を作ると言った、あれが正しい。マルクスとエンゲルスが書いたのは労働者階級だからね。

Q：階級闘争史観については、どうお考えですか？

A：だから、ずーっと階級闘争をやっていく、だけどマルクス・エンゲルスの主張の仕方というのは、そこから出てくる階級闘争ではないな。作り上げた形に階級をもって行って、闘わせる、と。

Q：自分たちがイメージした階級という中にはめ込んでそれを階級闘争という？

A：その辺は運動史を書く場合にも、頭の中に常に置いといて、勝手なことをこちらから作り上げないように、…。

だから二点言ったと思うけど、一点は、労働者と、所謂「Labourism」と、働く人のそこの階級なりの事実上の違い、そういうのは急速に変化する。所謂「Labour」が多くなって来る。人から雇われなければメシ食えないというのが一杯出てくる。

経済の変化は、我々が予測している以上に変化している。資本主義そのものが変化している。最初から大企業ほど宜しいと言う判断基準が無くなった。歴史を書く時も、一応念頭に最初に置いて、歴史の時代もあるから、変化があるから、その中でそういう問題をキチット考えるような態度で分類しないと、…、組合的な言い方をすると、あいつは共産党的だ、判ってないとか、そういうこというだけでは駄目なんだ。

Q：三池の運動史の編纂に最近携わられたと思うが、そこで感じられたこと、それもそういうことですか？

A：いや、僕は中身のことはあまり言いませんけど、…、

Q：三池 20 年史も書かれた？

A：書いたけど、その時と立場違う。時代というか、自分の考え方が古いというか、昔はそ

れなりの、堕落した考え方で、…、だからもう少し、考えてみたらどうかと、…だから、会社の立場にしても、職員組合の立場にしても、理解せずに書いてある、それから、三池との関係で現実的にやって来たのは、分裂以降、これも、三池の分裂というのは、結局、経営者と野合する奴ばっかりだ、という感触で、終わって行く。そこに、自分達の反省があまり無い。そういう組合の態度も自己反省の中に入れておかねばならない。

だから、思想があり、その思想に清潔であるということが、優等生みたいに見える。

それから、余分なことかな、と思いながらも、考え直してみたいと思うのは、マルクス主義で、いわゆる資本主義の発展、労使の解決保障というのは、核になっている。ところが、世界というのは広いんで、歴史も長いんで、考えてみると、そのような骨格になっていない。東南アジア見たらどうですかと、そうなる。

マルクス・エンゲルスが考えたようなことが、レーニンまで行ったとしても、スターリンにいって行き止まってきて、問題が判ってきた。或いはそれから、矛盾が出初めて、いろいろソ連社会主義体制というものが、10 年前無くなっている。これは一体何なのか？と、いうことを念頭に置いたほうが、良いんじゃないかと思う。人類の歴史と言うものは、あのように綺麗に、分類したような社会になるか、というとなんかそういう風でないような気がする。マルクスも苦労したんだと思うけど、歴史の分け方を古代社会とか、中世、封建社会と、近代資本主義とか分けたけど、これかなり無理があった。

Q：唯物史観、史的唯物論、その辺を疑問に？

A：それは基本を、その言葉は置いといて、自分でかなり修正なり、ぐらつきが在るもんだと、いう風に前提とすれば良い。ピシッと括ってしまうと間違う。私も、それにとらわれない様に本当は議論してきたつもりです。やはり、非常に大事な考え方だと、思ってます。

Q：向坂逸郎先生は、三池にあれだけ力を入れられたんだけど、やはり、三池の労働組合を強くすることが、日本の革命に、繋がると？

A：それは言ってるんです。

Q：それは本気でそう考えられたんですか？

A：はい。私は、昭和 29 年から筑豊が大きな問題になってきた、34 年までぐらい、5 年間位考えてみると、走り回っていた。筑豊に 50%、三池に 50%の、余暇をさいて、現場に行って言いたい放題、アジテーションして回った。三池闘争が本格的になった時に、昭和 34 年の時に、向坂先生から怒られた。前回言ったように、筑豊のああいう馬鹿者共になんぼ演説したり、教育しても、革命にならない、三池で一人でも多く革命者を作れ、と、これが我々のメンバーなんだ、と。こういう言い方だね。

Q：しかし、今考えたら、あの大経済学者が、三池という一部分に期待をかけられた？

A：僕はその通りと思う。

Q：そこから日本の労働運動は変わっていくと？

A：僕は、事実、そういう動きはあったと思う。三池の影響受けた人は余計いる。

Q：三池と安保は一体で、資本による攻撃をかけられてきている所だから、そういう理屈の流れで、革命の要というわけ？

A：むしろ逆さまだな。安保に勝て、と、それから社会主義を作れ、というような考え方を三池を中心に、全国に拡大をしていけば、出来るんだが、丁度安保という闘いは、そのためのいい経験になっている。三池闘争も全国からオルグが来たりしてくれることによって勝てるんだ、と。結び付けていく方法を向坂先生は採られた。

余分のことを喋ることになるが、一つは、僕は昭和30年頃に、向坂先生から叱られて、そういう社会主義者はおらん、社会主義者の役割はそんなもんじゃない、筑豊に半分行って、三池に半分帰って、いかん、と。それから私は急に自分自身も考え方を明確にして、僕はあくまで同じである、と、俺が何故三池の為に闘っているかというと、その炭鉱労働者がこれだけやられているんだと言うことで、三池の為に…したんだ、言っただけ。

三池と筑豊は変わりないと私はいった。向坂先生はお前はよう判っとらん、と。

僕は、私なりの勉強の時間をさいても、炭鉱労働者の為に、夜遅くまで、一緒に勉強したというのは、これは、三池の為ではない、と炭鉱労働者の為だ、と。それが、三池で実行しようと、筑豊で実行しようと同じじゃないか、と。出来たら北海道も行かなきゃならない、というような気持ちは益々強くなってきた。結局、そのことが、多くの向坂門下の方々から、僕を見る目が冷やかになって来た。それから、三池闘争が済んだ頃か？　社会主義協会というのがあって、僕は除名されたわけ。中央委員会というのかあって、私を外して会議が開かれた。私の口実だけど、私は、学問とか自分の商売の動きを、私を規定したのは、社会問題だ、と。社会問題を解決したいというのが私の希望だった。いま私のスタートを言っている。それで、これは社会主義がいい、と思ったのが第2段階。

社会主義がいいと思った中に、やはり社会問題を解決出来るのは、社会主義のなかでやはりマルクス主義だと思った。これが社会党の左派とあれした。社会党左派形成の中に僕も加わった。山川均、向坂逸郎、僕の名前も、入ってる。そういう風で僕の物の考え方というのは、マルクスや社会党左派があって僕じゃなくて、僕のそういう考え方の中から選ばれて行ったのがこれだ。

もう一つは、じゃ社会党を強化しよう、という考え方。強化するためには労働組合が強くならなくてはならない。強くなる為に労働組合の指導者に社会党左派が行け、と。こういう風な考え方が出てくる。私も勿論そういう考え方に傾いておりましたけど、三池闘争の前後から、こういう問題を労働組合のみに畑を見いだしてそこで耕すというのはおかしいのではないか、と。やはり、失業者もいる。もっと小さな職場で働いている平凡な貧乏人も一杯おる。そういう風に考えると、社会主義協会というのはおかしいな、と。もっと広く考えなくてはいけない、と僕は移っていった。

その行動の一つの現れの中に、筑豊に足を運んだというのもある。その辺になってくると、向坂さんが天神のあそこに来られて僕はいつもなじられて何時も怒られていた。お前

はもう社会主義じゃないな、と。三池闘争が終わる頃には、はっきりそう言われた。だから、逆に僕から言わせると、社会主義でなくてもいいです、と。社会的に問題のある様な人を幸せにする運動が私は役割だと思っています、と。それで除名された。私は動けなくなったもんだから、僕は自分で動く為に社会問題研究所に団体を作って、自分の雑誌を発行しょうと。これも全国にはあり得ない。

Q：ただ、社会問題月報の当初は向坂門下生がかなり、投稿している？

A：これに取り上げているのは、社会問題であって、社会主義ではない。

Q：先生が除名されたのは 62 年で、これの発行が 62 年 10 月になっているから、そのあとすぐ？

A：え、すぐ出したと思う。10 月頃にそれ出したと思う。

Q：県政研究会との関わり、流れで言うと、こちらの設立と？

A：それは大事だ。三つ目の話題になると思う。僕は向坂先生と異なる枝の中で運動してきたのは、一方に社会主義だというのを置きながら、地域では、県政研究会を始めた。それについて、鵜崎県政が勝ったもんだから、鵜崎県政ができる基礎になったわけ。鵜崎県政ができたもんだから、変えようかということで、地域懇にした。「県政」という刷り物をやめて、「地域懇」という刷り物を出した。どちらも地方自治を論じた。

　あなた達も考えてほしいのですが、向坂先生は、「社会主義というのは全国的につぶすしかない、お前は何で地域のことに力を入れるか」と言うから、僕は、そこからスタートしないと、本当の社会主義は出来上がらない、と言った。 …怒られてねぇ。

Q：地方自治とか、地方自治体と言うことに対する…。

A：全然違うんです、…。

Q：奥田先生は、そこに着目されたわけですね、地方自治体問題に関心を示されたわけですね…、で、向坂先生の思想の中には、地方自治体というのは入ってない、と…。

A：無い、無い！　邪魔になると言った。だから、むしろ、全世界的な社会主義の動きに力を入れろ、と。なんで、足元に苦労するか、と。…、これは、除名の大きな一つの理由です。

Q：奥田先生の他に、奥田教授と同じ考えの人は？

A：ちょっと居ったんだけどねぇ、松井君、北海道に行った、…、ほかに居らんな。

Q：社会主義協会は、山川均がいる頃は別として、向坂逸郎先生がキャップとなった後というのは、言ってみれば、向坂逸郎なり、大内兵衛というマルクス主義経済学者を頂点とする一種の学者のギルド組織という側面があるのでは？　…と言うことは、除名ということは、学者としてのグループからも外されると言う意味か？

A：まあーそうと思うけど、名目は社会主義協会中央委員会の委員を解く、と。

Q：除名で無くて、中央委員の解任ですね？

A：それでね、もうちょっと妙な話をこの通りしてるけど、地方の問題で、あの当時、安保・

三池ということが大きかった。地方の社会党の任務は中央の言うように安保・三池を闘わんといかんと。それで、川口武彦が居る。これが全県管理組合（？）昭和 60 年の、真っ最中だった、「あんたのやってることは、社会党に邪魔になる」と言った。

僕は社会党の役員では無いし、党員だった、所謂秘密党員。何が、そうね、て言ったら、「あなたは筑豊行ったり、地方自治のことを…と言うたり、ああいう事は常に処分になる」と言う。除名の、ああいう会議の一つの流れみたいなもの…、で、「そういう事は止めてもらわにゃいかん」と。

あんた達にそんな事文句言われなきゃいかんか、と、いうことで、…、1960 年と言えば約 40 年前、ぼくは、いま 78 歳ですから、38 か 40 位の時。とにかく、ぽーんと、それをぶっ付けられた。お前、何言うとるか、と。で、除名という話が出ておる、と言うんです。

…除名されんといかんかなあ？と、僕は、どっちでもいい、と。これまで言って来た事を変えようとは思って無い、と。それで、もう、どうぞ、と。そのままして下さい、と。そしたら、除名を決定したらしい。それでわたしは、社会党の秘密党員で、そこでなくなった。それが 60 年。

Q：社会党の除名が先ですか？

A：早い。あの時の社会党の中心に居たのは、篠原文治。

Q：書記長は、弥之助（楢崎）？

A：そうかなぁ。除名というから、勝手にせー、と言うことになった。

Q：川口さんとかは、土屋知事のリコールから鵜崎県政の誕生という所の動きには関わってらっしゃらなかったのか？　例えば県政研究会の…。

A：その、何か物的証拠に残ってない、資料は。私の場合は、県政研究会作ったのが残っている。

Q：先生の場合は、九大の職組の委員長として、土屋の時の、汚職県政何とか（土屋県政汚職究明県民協議会・32 年 4 月）の、メンバーの一人に成ってますね？　長谷部さんの回顧録に載っていた。

A：成っている。思い出した。土屋リコールに僕はかなり頑張った。

Q：それに、川口先生周辺の動きはどうであったか？

A：あんまり、動きが…。

Q：その辺は、向坂先生とか川口先生とかは、あんまり、…。

A：動いてない。その時地方自治というのは問題になった。

Q：これは、57 年だから、昭和 32 年の 5 月 13 日、その一ヵ月後に県政研究会が発足している。

A：だから、それがきっかけだな。

Q：奥田先生、嶋崎さん、衣笠さんとかそのラインというのが、県政問題に関する運動には

積極的で、向坂氏系列というのは、冷淡であった？という風に、…。

A：冷淡というのははっきりしている。無関心。

Q：県政研究会を継承する形で、社会問題研究所が成立したということにしては、わりと雑誌の内容は労働問題が中心ですね？　性格が全く変わってしまう、と？

A：いやいやだから、…、県。…、あれそのものではないね。だから地方自治というのは、そういう社会問題全体の一郭です。

Q：鵜崎県政に成ってすぐ、59 年 7 月 24 日には、県政研究会の筑豊に関する調査報告集が発表されている。文章だけみると鵜崎知事から委嘱されて研究して報告書が出されたと。それに基づいて、8 月 10 日には、母親大会があって、黒い羽根運動が提唱されて、9 月 10 日に黒い羽根運動本部が結成されていった。だから、一つは、県政研究会と黒い羽根運動の母体となる調査報告書の関係が具体的にはどうなっているか？　もう一つは、県職労に取って大問題、所謂革新県政とは何ぞや、革新県政下の労働運動とは何ぞやが大変な課題になって、これに、県政研究会が積極的に関わって来ている。先生は、昭和 64 年の「住民のための県政は如何にあるべきか」という県職労の自治研集会の基調講演で話している。

県政研究会というのは、筑豊に関する実情、それと黒い羽根運動の流れが一つと、革新県政とは何ぞや、革新県政下の労働運動は如何にあるべきか、と、これは積極的に関わってこられていますね？

A：それは、本論じゃないね。今日これまで話してきたのは輪郭ばっかりだ。

だから、土屋県政というのは、われわれの運動として非常に大事だと思ってやっている。それは逆に言えば、革新が県政を取らにやいかん、ということで、革新は地方自治というものをどう考えねばいかんかということを常に思っておけ、と言うわけ。それでもう、逆に言えば、その頃既に、もう向坂派と離れている。それは社会主義じゃ無いと彼らは言う。その暇があるなら、もっと社会主義のこと仕事せー、と。で、僕はそんなことはない、と。地方から変えて行くんだ、と、言っていた頃だから、今の質問の経過はよく判る。

で、僕は、土屋県政をどう潰すかという、山本副知事を呼んで、一億円はどうなんだ、といったら、彼はキチット説明した。判るように。その場は、僕等が招集した姫高会、あいつ旧制姫高出身です。何れにしても、これは本論だ。実践論でもあるし。単なる議論じゃ無い。だから至る所でやはり、行政なり、政治の姿が住民とキチット繋がり、住民の声が実現する様にせにゃいかん、と、いうような気持ちが地方自治じゃないと駄目じゃないか、ということから始まって土屋県政潰せと、こうなったわけ。だからそれは県政研究会でも、ようなった。鵜崎県政が出来た時も、我々が、相談をした、県政の方針について。

鵜崎知事の公舎に何回も行った。そして結局筑豊を調査して、パンフを出して、県民に報告して、という仕事はこっちから準備した。最初、鵜崎知事が 10 万円出した。

Q：その時、筑豊調査のスタッフはどういう人達？

A：一番県政と通じてくれたのは、浦川（県議）だな。彼が我々の言うことを全部土屋に報告し、土屋が我々に言いたい事をすーと言う[6]。

筑豊を調査して、子供達がどういう生活をしているかとか、学校どうなっているかとか、失業者がどうだとか、どういう家庭であるかとか、家族構造の問題まで、検討して報告出している。それは、何時でも出来るだけの準備はあった。だから筑豊の旅館も、一ヵ月位借り切って、調査するとか、仕事しました。その時は、関わったのは、松井はよくしてくれた。

Q：向坂さん系は無い？

A：それは無い。…。

しかし、黒い羽根運動というのは、僕に言わせると、この頃それを触れているのがあるけど、殆ど、九割は誤解している。福岡県政のことについて書いているが、やはり、黒い羽根運動というのは見捨てられない訳。その書く場合に、書く態度というのは、正確に理解はしとらん。問題にしているような態度で、黒い羽根運動というのは、何故起こっているのかと、これ全国の運動だ、それに対する理解が非常に浅いというか、間違いが多いとか、…。

女性で一番ようやったのが、今吉、かあちゃん。

Q：正確に理解されていないとは、何が、どう言う具合に理解されていない？

A：例えば、やってる人は鵜崎知事だと、これは間違える人は居らん。が、何故に、誰がそういう調査なり、報告を協力してくれたかということになると全然判っていない。それから、地方自治の関係とか、そんなものどうでもいいんだもの。

Q：一遍、朝日新聞かなんか特集しましたネ？　現職の知事時代に。知事の談話が載っていたでしょう？

A：朝日新聞はそんなに誤解は多くない。

話の続きで、思い出したんだけど、普通用いる歴史的事実として取り上げてくれるマスコミその他のことがあるけれど、感ずるのは、地方自治という観点は一つも無い。

だから、黒い羽根運動というのは、鵜崎県政が革新的に行ったボランティアだと。やろうじゃないかと推進連勁、一生懸命やってくれた浦川さん等を入れて、我々はボランティアということも、勿論、形が無ければならない。が、むしろ、自治じゃないか、ということを理解して貰うのに、いい種だな、と、いうことの方が、僕は言って貰いたい。

それを言うと記事にならんと、思うからだけど、その点は、歴史に携わっている人と、客観的に見ようとしている人の主観の違いでしょうけど。単なるボランティアじゃない。

Q：あれは、単なるボランティアでは無い。やはり、自治の問題ですか？

---

[6] この一文中の「土屋」は「鵜崎」の誤りか。

A：自治の問題！　強調の仕方も僕等としてはやはり、力がたりない。自治と言う事をね。自治を前に出して来ると、他の事は、いくらでもいいんかと、間違ったみたいな風では困る。ボランティアと思っている人は、もうそれで、と思っていたけど、我々としては、それを通じて、地方というもはどういう物か、やはり、地方なんだ。それで、皆の力でと言うことを、…、それで、…。

Q：調査報告書がなかったら黒い羽根運動は無かったですか？

A：それは、僕は、あるとは思うけど、あんな形にはなっていないな。今吉さんがうまいことやったんです。あの時の婦人会の会長は、徳永きっ子。きっ子さんなんかはもう少し素直な解釈だな。今吉まさえさんは、かなり社会党的な組織理解はありました。よし、ってんで、そこまで来ている全国母親大会で時間を取る、と。そして OK、を拍手喝采で取ると、そこまで誓いをして、ずーと下働きやって来た。

Q：革新の運動は、調査報告書で、客観的に調査してそれでどうするこうするというのは、今でも弱いと思うが？

A：だから、子供はなにを食べているか、とか、親子どう寝ているかとか、そういうことまできちっと調べている。

土門拳というのは、我々にとっては、リーダー・シップだな。

Q：当時黒い羽根運動をしていた社会党とか、そのこれは、自治の問題だ、と。単なるボランティアではない、と。そういう問題意識が全体的にあったか？

A：いや、僕はむしろ少ないと思う。少ないけど、絶対にそんな事を無視、問題にする時否定はしない。その通りと言います。言うならば、実践家だから。

Q：調査活動に実際に携わった人達は何人位で？

A：いや…、何十年も前のことで、…。

Q：結局労政事務所を拠点にして、労政事務所が案内？

A：そりやそうですよ、労政事務所ばっかり。

現地に行けば、まだ記憶のある人がおるかも知れんね。教組には、何人か協力してくれた人がおりました。

その前に革新県政と言っても、あのー、久留米の市長に成った人がおる、知事辞めてから、杉本、ああいう人を本当に革新と言っても言葉が合わない。

Q：杉本知事の時に、革新知事と言う言葉は無かった？

A：あったろう。無い？

Q：あの頃は多分革新とは言わない。社会党知事です。

奥田先生が「県政」に書かれているのは、「民主県政」となっている。

A：細かいことは、入れ込まなかったけど、大きく別けて三つ位、念頭に、頭の中に置いとって欲しいなあ、という気持ちのものです。で、結局、僕は、労働運動とかなんとか言うのから、資本主義というのは、大きく前提にある。資本主義、地方自治と言うのが背景に

無ければ、資本主義の発展というのも背景になければならん。その中に、日本的とか、ヨーロッパ的とかいう地域特性があったし、先進的、後進的というような問題もあったろう。そういう修正がずーっと来ますけど、福岡の場合は、特に、自治労なんかはそうだと思うけど、戦争が終わって、組合運動が起こって来る。それ以前に、やはり、共産党員の人が居ったかも知らんが、自主的な人が居ったかも知らんけど、自分自身で思想的な動きなり方向性を考えておった人が居ったかも知らないけれど、運動になってない。だから、戦後の革新運動を盛り上げたのは、一体何だ？と言えば、日本資本主義というものを前提になくては考えられない。だから、組合というものを全く理解しないで、組合運動の一人になってる心配もあるし、しょうがないでしょうね。で、私は、そんなに詳しいことは言えないので、強くは言いませんけど、イギリスなんかと比べて随分違うわね。イギリスの方がある意味ではもっと自覚的ではなかったか、…。

日本の方はむしろ人の言う様な気持ちで、自分をその中に温めて行くというやり方が多かったんではないですか。だから、自主性というのは、非常に少ない。その自主性というのは、育たない内に、また、21 世紀のわけの判らん時代が来よるが、一体この 21 世紀は何じゃろうか、と。これをやはり、何とか捉えとかんといかん。で、簡単に言うと、ソ連が潰れて 10 年、やはり、変わって来た。変わったというのは、どう言う点が変わったのか、変化がどの様な状態を、労働運動なり、社会主義運動なり、そういう連動に、社会変革というか、「Reform」と言うか、何かそういう運動の中にどう変わって来るのか、と。これは、僕は大事な話だと思うんです。

だから、連合が出来た。こりゃ何じゃ、と、言うだけにもつんじゃな、だから我々の様な古い人間には、連合てなんじゃ、と、なんのためせにゃいかんか、言わにゃいかんか、という、これ、昔の労働組合と同じか、と、僕は判らん、と、全然、基礎が違う。ちょっと離れて見ると、もう立場が全然違う、というか、そういう時代になりよるが、じゃ、社会全体がどうなるのか、というと、私はもう答えられない。で、今日の新聞でも、ユーゴで、なんでアメリカが口出しせにゃいかんのか、と。ユーゴの戦争の時と同じような事を日本の労働者も要請される場合がある、アメリカが戦争に加担したら、そういうことも、前提にしてみれば、おかしな時代が来よるな、と、いう感じがするんだ。

で、その場合労働組合はいらないんだ、と、これまでの、これは、奇怪しいなと思うんです。だから、20 世紀というから、ソ連が潰れた後というか、労働組合が念頭に置いていた社会情勢というのは、かなり、変わりよる、と、で変わりよるが、無くなるのか、それが判らない、そういう議論は前提はしない、と。

それはそうと、大体見て、地方自治というのは、県庁というのは、変わって来た？

ま、環境もそうだし、介護保健なんかね、連用していく場合、結局、僕アメリカのことよく知らないけれど、厚生年金的なもの無くなりよるて、若い人、年金貰える時期が無くなる、と思う。

それと、もう一枠大きな問題は、資本主義そのものだ。我々これまで、資本主義、資本主義と言って来た奴が、一体どう成りよるんか、と。

Q：特に、日本資本主義が判らん？

A：そうか、わからんか。